

津ライスニュース 令和2年産 第3報

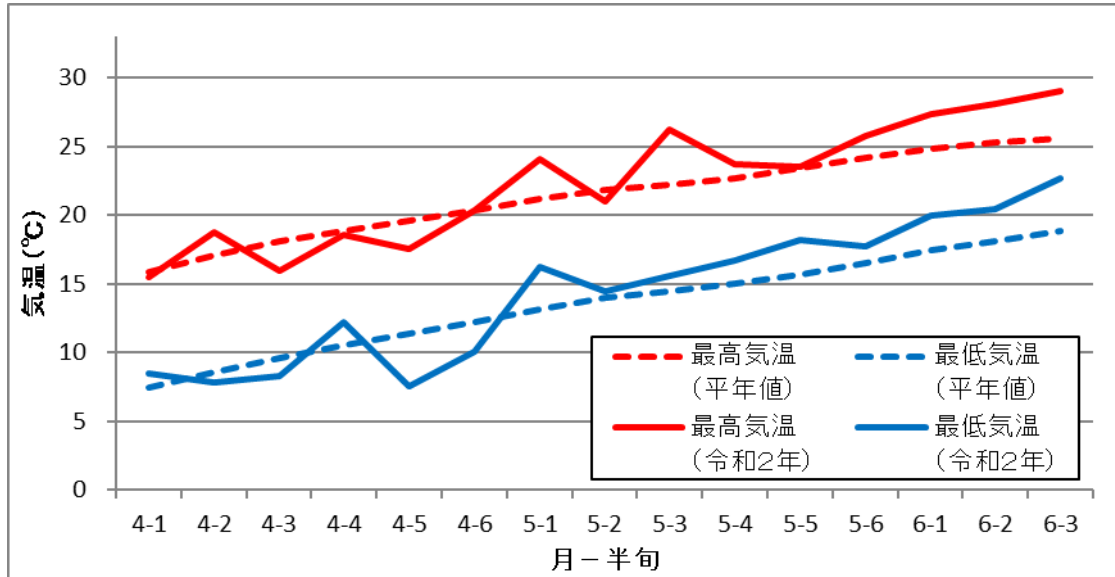
令和2年6月18日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

気象経過

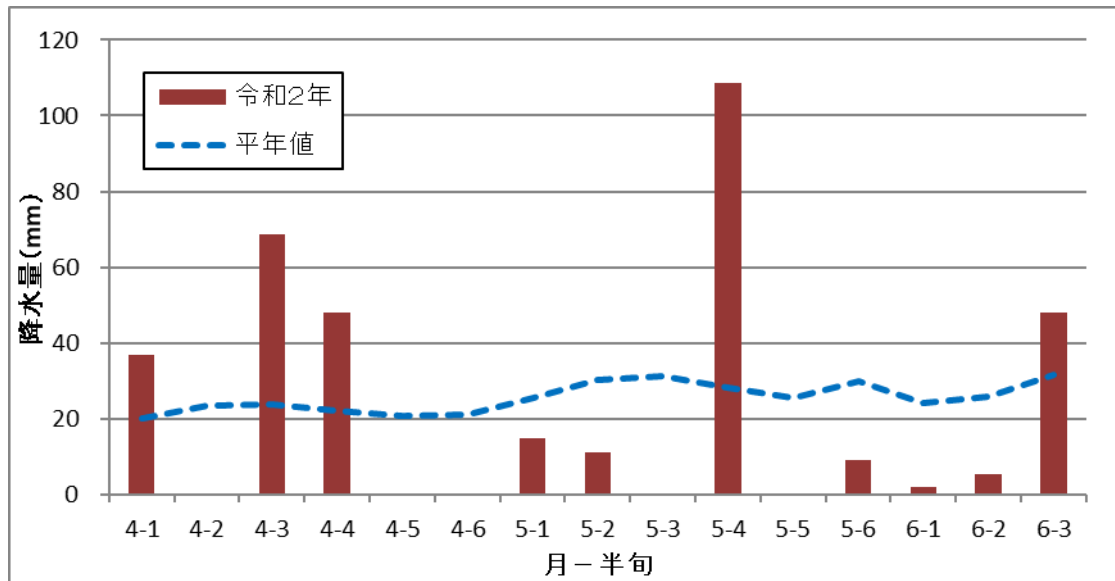
<気温>

4月下旬は最低気温が低い日があり冷え込みましたが、5月以降気温は高く推移しました。



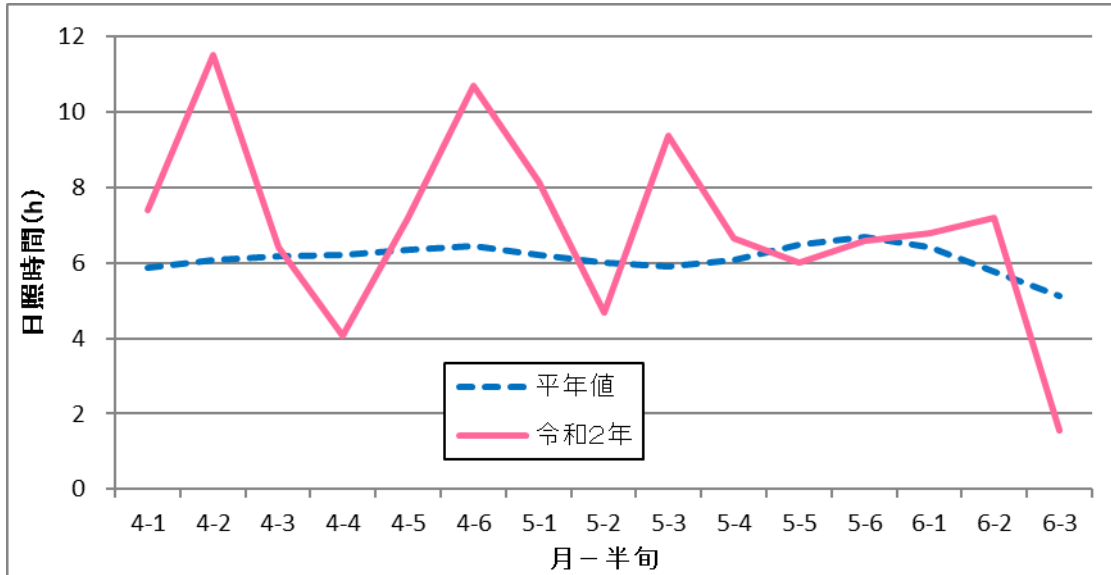
<降水量>

4月中旬、5月中旬には、まとまった雨が降る日がありましたが、平年より降水量はやや少ない状況です。



<日照時間>

4月下旬から5月中旬にかけては日照時間が多く推移していましたが、6月10日の梅雨入り後は曇りや雨の日が多くなり、日照時間が少なくなっています。4月から6月第3半旬までの総日照時間は平年に比べ多くなっています。



生育の概況

本年は育苗期間中の気温が低く、苗丈は短めでした。移植後の低温や強風により一部植え傷みがあったものの、全体的には順調に活着しました。5月以降の気温が高めに経過していることから生育はやや早くなっています。農業研究所(嬉野)の作況田の生育状況は、平年に比べ草丈がやや長く、茎数はやや少なくなっています。

また、生育基準田のデータでは例年より葉色が濃く経過しています。

○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

【調査時期: 移植+49日後(6月12日)】

品種	年度	移植日 (月.日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)
コシヒカリ	R02	4月24日	53.4	558	9.6	33.5
	平年値(H22~R1)		51.0	665	9.4	36.2
三重23号	R02	4月24日	59.4	667	10.4	38.9
	平年値(H24~R1)		52.5	641	9.7	41.3

令和2年産水稻生育基準田 調査データ

R02年産水稻

R02.6.15時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色 SPAD	葉齢 L	移植後日数
殿村	4月18日	58.2	559.1	41.6	9.7	58
安濃	4月25日	58.3	476.7	45.2	8.4	51
白山	4月30日	54.4	302.4	41.1	8.0	46

令和元年産水稻生育基準田 調査データ

R01年産水稻

R01.6.14時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉色 SPAD	葉齢 L	移植後日数
殿村	4月18日	53.7	666.7	32.0	10.4	57
安濃	4月25日	47.4	400.8	35.1	9.1	50
白山	5月1日	46.6	397.6	33.7	9.4	44

病害虫の発生状況と対策

<いもち病>

いもち病発生の適温(25～28℃)となる時期を迎えています。今後、雨の日が続く、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)による発生予測において、津管内では5/27と6/14に好適条件が確認されていますのでほ場を見回り、いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。感染源(補植用の置き苗など)を減らすことも対策の一つです。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)

【<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39584007416.htm>】

または「三重県 ブラスタム」で検索を。

<斑点米カメムシ類等>

今後、畦畔等、ほ場周辺での発生増加に注意しましょう。

- ・カメムシ類の増殖場所となるような畦畔雑草を早めに除去しましょう。
- ・草刈りは出穂10日前までに行いましょう(出穂直前や出穂後の草刈りは、水田への害虫侵入を助長します)。

今後の栽培管理

<中干し>

- ・中干し開始は移植後35日前後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/㎡、20本/株程度となった頃)から行います。
- ・中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分けつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。
- ・中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)に合わせて実施してください。排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとう水管理が楽になります。
- ・***茎数が多い場合** →中干しを早い目に、やや強く行います。
ただし、田面が大きくひび割れるような中干しは、根を切断し生育を強く抑制しますので避けてください。
- ・***茎数が少ない場合** →中干しを遅い目に、弱く行います。

<中干し後の水管理>

- ・中干し後は根が弱っています。そのため、こまめな間断かん水を行い、土壌に空気を送り、根の健全化に努めましょう(長期間水を溜めておくと、酸素が不足することによって、根の老化や根腐れによる下葉の枯れあがりが進むことが懸念されます)。
- ・幼穂形成期～出穂・登熟期間は水が最も必要な時期になります。水を切らさないような間断かん水を心掛けてください。

<除草>

- ・除草剤の効果不足によってヒエや広葉雑草の発生がある圃場では、早めに後期剤を散布しましょう(但し、成分回数や使用時期＝特に収穫前日数に注意してください)。

<穂肥>

穂肥は適期に適量を施用しましょう。

※全量基肥肥料(一発基肥)施用田は原則穂肥を施用しない。

ただし、生育前半が高温で推移し肥効切れが懸念される場合は出穂期に窒素成分で1kg/10a程度の追肥が効果的です(白未熟対策にもなります)。

施肥過多は食味低下の要因になるとともに、倒伏・穂いもちの発生を助長します。

○穂肥の施用効果が期待できる稲の姿とは

- ・葉色が薄くて(葉色 4.5 以下)、葉が直立している。(株元スッキリ)
- ・地際の節が短く(第4節間が3cm程度)、茎が太い。
- ・過剰な分げつが少なく、草丈が70cmを超えないこと。
- ・病害(特にいもち病、紋枯病)の発生が少ないこと。

○施用量の判断

- *分げつが多く生育が過剰な稲 → 時期を遅らせる。量を減らす。やらない。
- *分げつが少なく小出来な稲 → 時期を早める。

○穂肥の施用時期

◇一回目の穂肥は籾の退化防止、籾殻を大きくする効果が期待できます。

- ・コシヒカリ 出穂 18～15 日前(幼穂長 1.0～2.0cm)
- ・その他品種 出穂 22～20 日前(幼穂長 0.5cm)

※穂肥用緩効性肥料を使用する場合は時期を2～3日早め、1回のみでの施用とする。

◇二回目の穂肥は玄米を大きくする。いわゆる「実肥」的な効果が期待できます。

- ・一回目の穂肥施用 7～10 日後

(参考)

○水稻生育予測

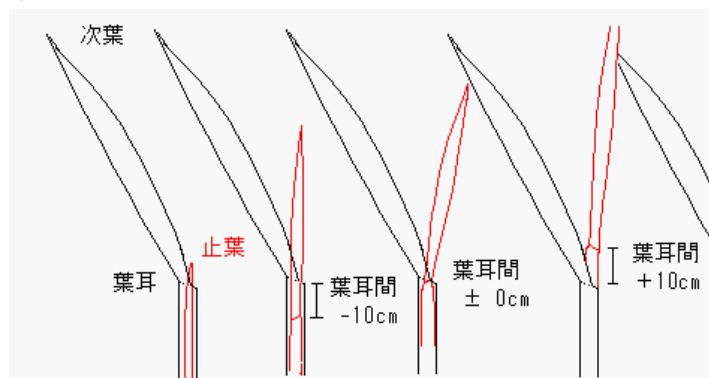
【令和2年6月18日現在】

品種	移植期	幼穂形成期の予測日	出穂期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	6月26日	7月17日	(1.9日早い)
	5月15日	7月6日	7月27日	(2.2日早い)
みえのゆめ	4月25日	7月2日	7月25日	(4.7日早い)
	5月30日	7月15日	8月13日	(4.7日早い)
三重23号	4月25日	6月20日	7月12日	(1.9日早い)
	5月10日	6月29日	7月21日	(1.9日早い)

※三重県農業研究所作成の生育予測システムVer9.2による生育予測です。

気象庁アメダス津観測地点データ(直近10カ年の平均気温)を使用しています。

☆葉耳間長(止葉の抽出程度)と出穂前日数の関係



出穂 15 日前	出穂 10 日前	出穂 5 日前
葉耳間長 -10cm	± 0cm	+10cm

コシヒカリの穂肥施用のめやす(資材は例)

葉色(葉色板)		3.5~4.0	4.0~4.5	4.5 以上
草丈		65 cm	70 cm	75 cm以上
NK 化成7号 (17-0-17)	一回目	10~15kg/10a	7~10kg/10a	やらない
	二回目	10kg/10a	10kg/10a	10kg/10a
IB045 (20-4-5)	一回目	20kg/10a	10kg/10a	やらない